

第38回若葉カップ全国小学生バドミントン大会予選会

感染症対策における注意事項（要項と重複する項目は当項を優先する）

- ・政府や各都道府県自治体のガイドラインに沿いながら、それに準じた規模で新型コロナウイルス感染症拡大前の通常の大会に戻す為に段階的な大会を開催していく。

第38回若葉カップ県予選会参加一覧

	総計	男子	女子	■義経アリーナ【男子会場】		■小松総合体育館【女子会場】	
				予選リーグ	予選リーグA~D 予選リーグ		
7日				決勝トーナメント	予選リーグE~H 予選リーグ		
8日						決勝トーナメント 準々決勝より	
合計	38	10	28				

《帯同審判員》登録したチームの入場時間に合わせて入場して下さい

入場後は、審判部より割当てがありますので放送がありましたらお集り下さい。

※帯同審判は1日となっていました、半日です 但し、男子の決勝トーナメント進出チームの審判は1日となります

- ・新型コロナウイルス感染者が出た場合の追跡調査が出来るように名簿の管理と検温と健康チェックを行う。

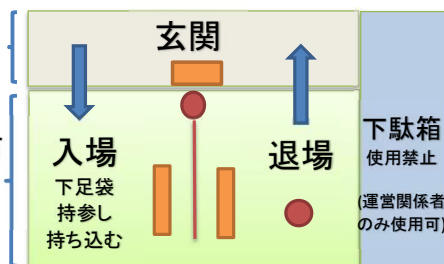
- ◇ 入場時、玄関で検温し体温測定表に記入
(37.5℃以上は入場不可)、入場直前の炎天下での待機やアップなどによる体温上昇を防止する。
検温は団体単位で実施とし、各団体代表者が検温・記録し受付に提出する。
(入場学年毎に1枚提出)
- ◇ 大会終了後、2週間の間に感染者が発覚した場合、感染経路を追跡調査する必要がある為、
体温測定表の提出を以って関係期間の求めに応じて個人情報提供に同意したものとみなします。
提出された個人情報はジュニア連盟で管理し、期限満了後は削除を責任をもって処分致します。
(大会終了後、1か月保管する)

《入退場例》

指導者制限(1日目安)	
1チーム	3名可
1コート	最大1名

検温(記録)・消毒
健康結果確認

受付・プログラム配布
入退場管理



【大会の注意事項】

- ◇ 指導者の入場制限は表のとおりとします。
- ◇ 主審は割当てとし、チーム帯同審判（主審）を1名派遣して頂きます（会場内人数の削減）
- ◇ 線審・得点板を相互審判とします（待機している選手で得点板を協力して行う） マスク着用・イス無し
- ◇ 入退場扉はそれぞれ専用とし、通路・階段等は右側通行とする。（ソーシャルディスタンスの確保）
- ◇ 大きな声の発生を禁止する。（集団感染・飛沫感染抑止）
- ◇ ラケット・タオル・水筒・氷のう等個人の道具を直接床に置かない。（各自ラケットバッグやビニール袋など持参）
- ◇ 身体接触を最小限にとどめる為に握手、ハイタッチ、抱き合うなどは禁止する。
- ◇ 参加者の出したゴミから感染が発生する可能性がある為、ゴミは各自持ち帰りを徹底する。
(飲み残しも持ち帰りを徹底する。)
- ◇ 選手や関係者以外の入場は禁止する。（保護者は選手1名につき1名とする。）
- ◇ プレーに支障の無い窓は常に開けておき、2時間を目安に10分の換気をする。
- ◇ 観覧席は観覧及び選手の待機のみ可とし通路も含めてランニング・アップ・ストレッチ・声援を禁止する(拍手可)
各団体指定場所で観覧・待機をお願いします。
- ◇ 団旗掲揚はご遠慮ください。

ビデオカメラの撮影は、通路から撮影にして下さい、最前列、座席は不可

運営における注意事項（要項と重複する項目は当項を優先する）

【大会準備と終了時の注意点】

チーム単位で受付をする。

入退場や人の導線をコントロールする為、屋内外案内板を設置する。

主催者側は手袋を着用し、新しいシャトルの受け渡しや、使い古しシャトルを収容する際の感染予防を徹底する。

監督者会議は行わない。（チーム毎に棄権者の連絡をする。）

開会式は行わない。開始前に主な注意事項等のアウアンスを行う。

同一選手の試合間インターバルは10分以上とする。

【コート設営と収納】

必要最低人数（1コート2名）で設営・収納する。（審判・コーチいずれもイスは使用しない。）

モップやコート設営の際は、出来るだけ使い捨てビニール手袋を着用して行うか接触都度消毒を行う。

設営/収納後は、支柱と設営者の消毒をする。

モップ掛けは2mの間隔を開けて行い、終了時には用具と使用者の消毒をする。

【大会アナウンス】

マイクはマスクを着用したまま使用する。

【大会運営中の注意点】

バインダーやボールペンはこまめに消毒する。

用具の貸し借り禁止する。

シャワーや更衣室の使用禁止する。

ジュニア連盟大会は感染拡大防止対策として細かくルールを決めてあります、まだ完全ではありません。

ルールに記載されて無い事でも、入場される方一人一人の判断で更なる感染防止に努めて頂くようお願い致します。

大事なのは主催者も参加者も安全にバドミントンが楽しめることです。

そこを常に頭に入れて今の時代に合った大会方法をみんなで考えて行きましょう。

